

編集後記

病理学的にはポリープが癌化したとしか考えられない病変があるという。それでは初診時確かに良性だと思われたポリープを永く follow-up すれば癌になるものがあったもよいのではないか。そういう症例を探そうというのが本号の一つの目的でもあった。その背景には昔のように癌化を懼れて切除するにはあまりに多くのポリープが見つかるようになりそれらを慎重に follow-up すればする程癌になる例はないということを皆がうすうす感じてはいるが絶対癌化しないといい切るにはまだ観察期間の十分な症例が一施設では少いということもある。

本号ではまずどのような例を現段階ではポリープの癌化というのかの組織学的判定基準をこの方面での造詣の深い長与先生に解説していただき、あと各施設でのポリープの癌化と思われた症例や良性ポリープの長期観察結果などを主としてならべた。両者を対比し乍ら読むことは大変興味あることと思われるが、まだ問題が clear cut になったとはとてもいえない。しかし提示された症例はすべてポリープの癌化に関して何らかの示唆を与えるものであり、この問題についてのわれわれの考えを大きく前進させてくれるものである。

一昔前に比べれば網は確実に狭まってきたといえる。生体ではまだまだわれわれの考え及ばないことが起り得るということを知って、号令をかけたり、ましてや傍観する人ではなく、実際に網を引く人になりたいものである。

<芦沢 真六>

<編集> 早期胃癌研究会